

## 足軽（歩兵）の俸禄と出世

### 足軽の俸禄：

武士階級は大名によって雇用されており、彼らの奉仕に応じて俸禄を受け取りました。彼らの地位は代々受け継がれ、収入を得られる知行地が与えられていました。その一方で、足軽は、形式的には世襲ではなく、土地からの収入もありませんでした。足軽のように低い階級の侍は、米や硬貨のお金と交換できる「切り米」というバウチャーを、決まった時期に受け取っていました。

加賀の典型的な足軽は年間約 20～25 俵の俸禄を受け取りました。2 俵は 1 人の 1 年分の炊飯量に相当します。一般的に足軽の家には 6 人程度の人が含まれるため、俸禄の半分は、生存するために必要な食品を購入することに費やされました。

### 足軽の副業：

俸禄を補うために、足軽は時間のある時に自宅でしばしば副業をしました。彼らは「お盆（祖先をまつる夏の仏教行事）」といった伝統的な祝日で使う装飾を作ったり、灯籠、人形、子どもたちの遊具などをすき間時間に作ったりしていました。

### 加賀騒動：

彼らの生活は厳しかったかもしれませんが、多くの足軽は教育と文化に多くの投資をしました。その中からは、大槻朝元（1703—1748）のように、大きな出世をする機会をつかんだ者もいます。

「加賀騒動」とは、金沢の歴史における悪名高い出来事です。大槻朝元という足軽が自らの階級をはるかに上回る出世をした後、不幸な運命に見舞われました。このエピソードは、多くの人の死をもたら

し、何度も物語の中で語られ、歌舞伎（日本の伝統劇）としても上演されています。出来事の内容は以下の通りです。

加賀藩は18世紀、経済的に苦しんでいました。時の大名である前田吉徳（1690—1745）は、朝元という足輕を起用し、解決策を見いだそうとしました。朝元は藩の支出を削減し、米生産量を増やすために農業に投資することで、藩の財政を立て直そうとしました。吉徳は彼の取り組みに喜び、朝元を高い階級に出世させました。これは既存の上流階級とうまくいかず、彼らは朝元を憎みました。吉徳が病んで亡くなった時、上流階級の者たちは朝元を遠く離れた山に追放しました。朝元はここで最後を遂げました。この事件では、次の大名は早く亡くなり、その次の大名が毒殺されそうになりました。このような藩の運命の変動と後継者の大名の早世といった一連の出来後をまとめて「加賀騒動」と呼びます。